

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22730212

研究課題名（和文）

オープン化した地場産業型集積の集積間分業と集積間競争についての研究

研究課題名（英文）A research on divisions of labor and cooperation between agglomerations in eye-glasses industry

研究代表者

榊原 雄一郎（SAKAKIBARA YUICHIRO）

関西大学・経済学部・准教授

研究者番号：00420696

研究成果の概要（和文）：

本研究では事例として眼鏡産業の三大産業集積について取り上げ、その中で鯖江地域の盛衰を、集積「外部」に広がる他の産業集積との分業ネットワーク構築および集積間競争から描きだした。鯖江地域は 1960 年代以降でみると、低コストを武器に積極的に海外市場へ打って出ていき一定程度の市場を獲得したが、1980 年代にはいると円高の進展により輸出競争力が落ちる中で、発展途上国が低価格品市場で台頭し、海外市場を徐々に失いつつある。これに対して、鯖江地域は中国の産業集積との低価格品競争に打ち勝つために、自ら海外展開を進める一方で、著名ブランドを保有するイタリア産地の戦略に組み込まれアジア地域向け製品を供給する OEM 基地化が進んでいることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

In this research, we investigated the divisions of labor and cooperation between agglomerations in eye glasses industries in the global economy. We found that Sabae eye glasses region invested in and involved Chinese region as production area. But at the same time, Sabae region was involved by Italian regions' network and affected by their strategies. Sabae region become one of Original Equipment Manufacturing region of Italians region. This process can be considered as losing their independences in this industry.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：地域経済学

科研費の分科・細目：経済学、応用経済学

キーワード：地場産業、産業集積、鯖江眼鏡産地

## 1. 研究開始当初の背景

産業集積についての研究は Piore and Sable (1984) 以降、地域経済学および関連分野で多くの注目を集め、それに関する多くの研究成果が蓄積されてきた。同時に、産業集積は学術的な面のみならず、クラスター政策にみられるように政策面からも多くの注目を集めている。

産業集積の研究は、地域経済学等で注目を集め既に多くの研究成果が蓄積されてきたが、これまでの議論は主に集積「内部」に着目したものであり、集積「部」については十分関心が払われてこなかった。このため今日のオープン化が進む産業集積の盛衰については十分対応できない。

今日の産業集積の盛衰を理解するためには「内部」のローカルなネットワークだけではなく、国内、さらにはグローバル規模に広がる産業集積「外部」のネットワークにも目を向けることが重要である。今日いくつかの産業集積はグローバル規模で集積間分業を構築し、またグローバル市場をめぐる産業集積間で競争を繰り広げているのである。今日のオープン化した産業集積の盛衰を理解し、産業集積の競争力について検討するためには、こうした集積「外部」に広がる集積間分業のネットワーク、さらには集積間競争について研究を進める必要がある。上記問題に対応するため、本研究に取り組んできた。

## 2. 研究の目的

研究の目的は、オープン化が進む産業集積の盛衰を、集積「外部」の集積間分業の構造と集積間競争から説明した上で、そこでの産業集積の競争力とは何かを検討することである。

本研究では集積「外部」である集積間分業の構造と集積間競争のあり方を検討し、オープン化が進む産業集積の盛衰の要因と競争力とは何かについて明らかにする。事例として眼鏡産業の三大集積(福井県鯖江、中国東莞・温州、イタリアベッルーノ)を取り上げて研究を進めてきた。

本研究の特色は以下のとおりである。まず、これまでの産業集積研究が主に産業集積「内部」に向けられていたのに対して、①本研究では、グローバル経済下でオープン化した産業集積の盛衰ひいて競争力は、「内部」構造のみならず、集積「外部」である集積間分業の構造とそこでの役割およびグローバル規模での市場獲得のための集積間競争のあり方が重要であると考えている点である。具体的には、②本研究では、グローバル規模に広がる集積間分業のネットワーク構造およびそこでの非対等的な役割分担から、オープン化した産業集積の盛衰を説明しようと試みている。なお、ここでは③ブランドやライセンスの供与といった財の取引を伴わない集積間関係について取り上げている点も特色である。また、産業集積の盛衰を左右する要因として④グローバル規模での産業集積間の競争について検討している点も特色である。このように本研究では、各産業集積は、ある場合は集

積間分業のように非対等的ではあるが他の産業集積と協力関係を構築し、またある場合は市場獲得を目指して競争すると考えている。こうしたグローバル規模で行われる産業集積の協力と競争のダイナミズムが、ある産業集積の盛衰を決める重要な要因となる。

### 3. 研究の方法

本研究では事例研究として眼鏡産業の三大産業集積を取り上げ、これら集積が構築するグローバル規模での集積間分業のネットワーク、および市場をめぐる集積間競争のあり方を分析することにより、今日の鯖江地域の盛衰のメカニズムについて検討を進めてきた。こうした事例研究を通して、オープン化が進む産業集積の競争力とは何かについて検討した。

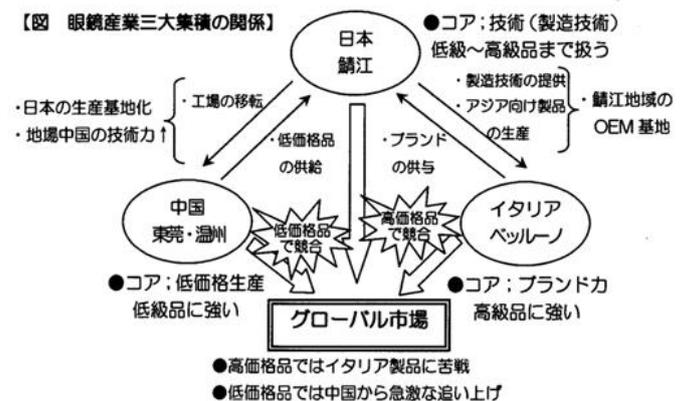
より具体的には、まず①イタリア、中国の二産業集積が構築している集積間分業のネットワークの全体像について検討を進めた。次に、②集積間分業の構造に注目し、非対等的な役割分担からそこで担当する役割と産業集積の競争力との関係について検討を進めてきた。③グローバル市場の獲得をめぐる集積間競争のあり方について検討を進めた。その上で、④上記要因から鯖江地域の盛衰を描き出す。これら事例研究を通して、⑤経済のグローバル化の下でオープン化が進む中での産業集積の競争力とは何かについて検討を進めてきた。

### 4. 研究成果

鯖江地域は1960年代以降で見ると、低コストを武器に積極的に海外市場へ打って出ていき一定程度の市場を獲得したが、1980年代にはいると円高の進展により輸出競争力が落ちる中で、発展途上国が低価格品市

場で台頭し、海外市場を徐々に失いつつある。これに対して、鯖江地域は中国の産業集積との低価格品競争に打ち勝つために、自ら海外展開を進める一方で、著名ブランドを保有するイタリア産地の戦略に組み込まれアジア地域向け製品を供給するOEM基地化が進んでいることを明らかにした。(下記の図を参照)。

【図 眼鏡産業三大集積の関係】



具体的な研究成果としては、本年度までに日本地域学会に1本論文を投稿済(榎原雄一郎・南保勝「縮小化時代における地場産業型集積の深層の発展力についての研究—福井繊維産地の再編成を事例に—」『地域経済学研究』Vol.22,pp.66-79,日本地域経済学会)、現在関西大学経済学会に論文を1本投稿準備中(榎原雄一郎「グローバル経済下における産業集積間の競争と協力についての研究;鯖江産地の事例から」『関西大学経済論集』)で、計2本が最終成果となる予定である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

研究者番号：

①榑原雄一郎・南保勝「縮小化時代における  
地場産業型集積の深層の発展力についての  
研究－福井繊維産地の再編成を事例に－」  
『地域経済学研究』Vol.22,pp.66-79,日本地  
域経済学会、2011年（査読あり）。

②榑原雄一郎「グローバル経済下における産  
業集積間の競争と協力についての研究；鯖江  
産地の事例から」『関西大学経済論集』掲載  
決定（査読なし）。

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

榑原 雄一郎 (SAKAKIBARA YUICHIRO )  
関西大学 経済学部 准教授  
研究者番号：00420696

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )